第 7 章　成果の普及・研究開発実施上の課題及び今後の研究開発の方向

担当：高橋　健太

1. 科学探究型人材育成に向けた学校設定科目の全分野への派生

昨年度に引き続き表現理解力における質問をする力の育成は課題として残っている。今年度は昨年度と比較して実施できた事業は増加したが、その事業内の時間だけではこの力を伸ばすことが難しいのが現状である。ひとつひとつの事業の改善はもちろん、各事業の位置づけを明確にし、より系統化を図った上で展開していく必要がある。

「神戸サイエンス」と「特別探究」において「課題研究の手引き」が冊子となっていたが、この手引きを学校 HP で共有した。また、過去の総合科学系の研究ポスターも HP で共有し、地域への成果の普及を行った。今後も随時更新し、手引き等も内容をより充実させていく。

2. 英語で議論する力の向上をめざす実践的なカリキュラムの開発

「サイエンス英語」も上記の「神戸サイエンス」と「特別探究」に続き手引きの作成に着手したが、完成には至っていないため、引き続き進めていく。

海外研修については、今年度は実施できなかったが、来年度の実施に向け事業の抜本的な見直しを行った。具体的にはオンラインでの交流をメインとし、提携校と共同研究を行っていく。研究をメインに据えることで、その過程や発表から得られたものが校内の事業へよりフィードバックしやすくなると考えられる。新型コロナウイルス感染症の流行状況が改善すれば、海外での実地研修も視野に入れたい。

3. 研究成果に基づく交流機会の増加と生徒の自立的成長の支援

昨年度に引き続き総合科学系、人間科学系生活福祉コース、情報科学系以外の生徒の外部発表会の参加を促すとともに、参加者数の増加を目指していきたい。そのため外部発表を行った生徒の研究過程を共有する等、外部との交流の有意性を周知していく。

4. 探究型人材育成カリキュラムの全校生徒への波及

「課題研究の手引き」「過去の総合科学系の研究ポスター」を HP 上にアップロードしたが、課題研究の指導の経験が少ない教員に対しては、資料だけでなく教員研修をより活発に行う等、直接指導する機会を増やして全校への普及を図りたい。

5.市立高校の強みを生かした科学技術系人材育成のための連携拠点

各取組は昨年度より充実していると考えられるが、他校との結び付きをより強めていく必要がある。そのために、各校の取組の成果を直接共有する機会を設けるなど、教員間の連携を強められる取り組みを検討する。